

論文要約

学位論文題目 バレエ動作の運動学的特性とその知覚特性との関係性：審美性に着目して

氏名 河野 由

動きの美しさを識別し感受することによって生じる現象、すなわち動作の審美性は、言語や文化的な差異を超えて人の心を動かす要因であり、その知覚には、演技者の運動学的特性や鑑賞者の知覚特性が影響することが指摘されている (Calvo-Merino et al., 2008 ; Torrents et al., 2013). 演技者の運動学的特性は、特にバレエ動作において幅広く研究されているが (例えば, Bronner, 2012 ; 河野ほか, 2017), その多くは熟練した動作の成立過程の解明に留まっており、動作の審美性は考慮されていない。その一方で、自由な身体表現が許容されるコンテンポラリーダンスや一般人によるダンスにおいて、審美性に影響を与える運動学的特性はいくつか報告されている (例えば, McCarty et al., 2017 ; Torrents et al., 2013). しかしながら、これらは審美性が重視される動作ではないことから、舞踊動作全般に共通する審美性として解釈することは難しいと考えられる。また、これまでの鑑賞者の知覚特性に関する先行研究では、鑑賞者の経験 (例えば, Calvo-Merino et al., 2010) や演技の内容 (例えば, Bronner and Shippen, 2015) が審美性の知覚に影響することが報告されているものの、動作の審美性に影響する鑑賞者の詳細な知覚特性や運動学的特性との関係性は明らかにされていない。このような、動作の審美性が運動学的・知覚的に明示されていないことや、その関係性が不明であることは、動作の成果が、単に運動の距離や速さ、力のような量的な指標だけでは決定できないものを評価する際の大きな問題点であると考えられる。したがって、この問題点を解決するためには、舞踊の中でも動きの審美性が重視されるバレエ動作を対象に、運動学的・知覚的側面から動きの審美性を定量化する必要があると考える。そこで、本研究は、バレエの動きの審美性を、運動学的特性と鑑賞者が感受する知覚特性によって定量化し、動作の審美性に影響を与える運動学的特性および知覚特性に対する仮説を立案するための知見を獲得することを目指す。

【研究 1】 バレエの表現を伴う上肢動作の審美性の知覚に影響する運動学的特性および印象特性

バレエには、特徴的な表現が求められる動作と、基本的な技術が求められる動作がある。まずは、前者のような表現を伴う上肢動作を対象として、審美性が異なる動作の運動学的特性、多様な評定用語により評価した印象特性を明らかにするとともに、両者の関係性を検討した。対象は、バレエ経験のある 34 名の女性を印象評定者とし、技術水準の異なる 12 名の動作実施者が行った上肢動作を鑑賞させた。その際、再テスト法にて評定尺度の信頼性が確認できた形容詞 21 対語を使用して、評定を求めた。その後、審美性の印象のうち「美しい—醜い」の評定値を映像ごとに平均し、上位 30% と下位 30% (共に 7 映像ずつ) の 2 群を抽出し比較するとともに、有意な差がみられた運動学的指標および印象に対して因子分析を施し、その結果に即して両者の関係を調査した。その結果、バレエの表現を伴う上肢動作の審美性の知覚に影響する運動学的特性として、「上肢遠位部の鉛直

方向の空間的特性」因子、「肩関節の回旋方向の空間・時間的特性」因子、「上肢遠位部の左右方向の空間的特性」因子、「下降局面時の鉛直方向の時間的特性」因子、「挙上局面時の時間的特性」因子の5つが、印象特性として、「力性および時間性に関する印象特性」因子、「空間性に関する印象特性」因子、「鑑賞者の好みに関する印象特性」因子の3つが抽出された。また、「鑑賞者の好みに関する印象特性」因子の知覚には、「肩関節の回旋方向の空間・時間的特性」因子が、「空間性に関する印象特性」因子の知覚には、「上肢遠位部の鉛直方向の空間的特性」因子や「下降局面時の鉛直方向の時間的特性」因子が、「力性および時間性に関わる印象特性」因子の知覚には、「挙上局面時の時間的特性」因子や「下降局面時の鉛直方向の時間的特性」因子が寄与することが示された。

【研究2】バレエの下肢挙上動作の審美性の知覚に影響する運動学的特性および印象特性

次に、基本的な技術が求められる動作として「アラベスク (arabesque)」と呼ばれる下肢挙上動作を対象として、審美性が異なる動作の運動学的特性、多様な評定用語により評価した印象特性を明らかにするとともに、両者の関係性を検討した。対象は、バレエ経験のある61名の女性を印象評定者とし、技術水準の異なる14名の動作実施者が行った下肢挙上動作を鑑賞させた。研究1と同様の方法を用いて、再テスト法にて評定尺度の信頼性が確認できた形容詞20対語の評定を求めた。その後、上位30%と下位30%（共に8映像ずつ）の2群で比較するとともに、運動学的特性および印象特性の関係を調査した。その結果、バレエの下肢挙上動作の審美性の知覚に影響する運動学的特性として、「体幹部の空間および時間的特性」因子、「下肢挙上時の姿勢としての空間的特性」因子、「体幹から左上肢の空間的特性」因子、「バランスを保持するための空間的特性」因子の4つが、印象特性として、「時間性および力性に関する印象特性」因子、「鑑賞者の好みや空間性に関する印象特性」因子の2つが抽出された。また、「鑑賞者の好みと空間性に関する印象特性」因子や「時間性および力性に関する印象特性」因子の知覚には、「バランスを保持するための空間的特性」因子や「体幹から左上肢の空間的特性」因子が寄与することが示された。

なお、研究1・2の結果から、本研究で対象としたバレエ動作に共通する運動学的特性としては、運動範囲の大きさ、運動の速さ、関節の回旋運動が、共通する印象としては、「好き」、「良い」、「強い」、「高い」、「動的」、「リズムカルな」、「加速的」、「バランスのとれた」、「メリハリのある」の印象が挙げられた。また、鑑賞者の好みや力性および時間性に関する印象は、関節の回旋運動との相関が強かったことから、運動学的特性と知覚特性には因果関係があると推察された。

これらの知見は、動作の成果が、単に運動の距離や速さといった量的な指標だけでは決定できないものを評価する際の枠組みを提供するだけでなく、言語や文化の差異を超えて鑑賞者の心を動かす要因を探る手がかりとなることが期待される。こうした知見の蓄積は、審美系スポーツの評価にも応用できると考えられることから、単にバレエ動作に留まらない表現者と鑑賞者との非言語的なコミュニケーションのメカニズム解明に貢献できる可能性があると考えられる。